

資料 1

リンパ腫が疑われたイヌ 204 症例、ネコ 62 症例の各症例で細胞診およびクローナリティー解析を行い、クローナリティー解析の有用性を検討した。

イヌ

ネコ

細胞診：リンパ芽球が著しく増殖していたことからリンパ腫と確定診断の得られた症例

クローナリティー	検出率		クローナリティー	検出率
TCR	14.8% (20/135)	} 84.4%	TCR	20.0% (7/35)
IgH	65.2% (88/135)		IgH	48.6% (17/35)
TCR・IgH	4.4% (6/135)		TCR・IgH	14.3% (5/35)
ND	15.6% (21/135)		ND	17.1% (6/35)

90%近い確率で腫瘍性増殖を検出

細胞診：成熟リンパ球が多く細胞診ではリンパ腫と確定診断の得られなかった症例

クローナリティー	検出率		クローナリティー	検出率
TCR	40.0% (8/20)	} 60.0%	TCR	9.1% (1/11)
IgH	10.0% (2/20)		IgH	9.1% (1/11)
TCR・IgH	10.0% (2/20)		TCR・IgH	0% (0/11)
ND	40.0% (8/20)		ND	81.8% (9/11)

細胞診では確定できなかった症例でも腫瘍性増殖を検出

細胞診：リンパ腫ではなかった症例(反応性過形成、組織球腫、組織球性肉腫など)

クローナリティー	検出率		クローナリティー	検出率
TCR	0% (0/49)	} 2.0%	TCR	0% (0/16)
IgH	0% (0/49)		IgH	0% (0/16)
TCR・IgH	2.0% (1/49)		TCR・IgH	0% (0/16)
ND	98.0% (48/49)		ND	100% (16/16)

偽陽性はほとんどない

(クローナリティー解析)

TCR ; Tリンパ球が腫瘍性に増殖

IgH ; Bリンパ球が腫瘍性に増殖

TCR・IgH ; T・Bリンパ球がそれぞれモノクローナルに増殖、もしくは腫瘍化したリンパ球内でTCRとIgHにそれぞれ遺伝子再構成が起こっている。どちらにしてもリンパ球は腫瘍性に増殖。

ND ; 腫瘍性の増殖は検出されず

社内データ